

学術情報センター ニュース

第22号目次

- | | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------|----|
| ・電子メール新システムの概要…………… | 2 | ・「平成4年度学術研究活動に関する
調査」集計 - 中間報告…………… | 17 |
| 《NACSIS サービス案内》 | | ・学術情報センター利用の継続手続き… | 18 |
| ・学術情報ネットワークの整備・拡充と
サービス停止…………… | 5 | ・科学研究費による利用期限 (2月15日) … | 18 |
| ・インターネット経由での学術情報
センター利用…………… | 6 | ・NACSIS-ILL の運用状況
(1992年4月～9月) …………… | 19 |
| ・NACSIS-IR における画面表示の
中断方法のご確認を! …………… | 7 | ・NACSIS-IR データベース収納状況 … | 23 |
| ・NACSIS-BBS の機能追加…………… | 8 | ・接続ニュース…………… | 24 |
| ・電子メールシステム用電話回線
(300bps) の廃止…………… | 13 | ・NACSIS-CATデータベース構築状況 … | 25 |
| ・NACSIS-MAIL ディレクトリコマンドの
機能追加 …………… | 14 | 《教育・研修》 | |
| ・データベースの改訂 - MathSci,
SciSearch, Social SciSearch,
A&H Search, ISTP&B - …………… | 15 | ・平成4年度総合目録データベース
実務研究報告…………… | 26 |
| ・学術論文データベース第二系 (化学) の
収録対象雑誌の拡大…………… | 16 | ・平成4年度学術情報センター
シンポジウム開催…………… | 27 |
| | | 《その他》 | |
| | | ・人事異動…………… | 32 |
| | | ・学術情報センター日誌…………… | 32 |
| | | ・海外渡航一覧…………… | 25 |

電子メール新システムの概要

1. 電子メール新システム導入の目的

旧電子メールシステムは1987年度に導入されてから、電子メール(NACISIS-MAIL)と掲示板(NACISIS-BBS)のサービスを提供してきた。電子メール機能は、国際標準のCCITT 勧告 X.400 (MHS) の国内実装規約に準拠している。当初は本センターのみによるサービスであったが、1991年度から7大学大型計算機センターが加わりSIMAILと呼ばれる実質的なネットワーク・サービスとなり、幾つかの大学が参加準備をしているところである。このようなSIMAILの本格化に伴い、電子メールシステムは単なる中央郵便局の域を超えて情報交換のキー局としての役割を担うことになる。そこで、電子メールと掲示板およびディレクトリなどこれらの支援機能に加え、SINETほかの国内インターネットに対するニュースやファイルのサーバ機能およびニュースと掲示板との連携など新しいサービスの提供を計画した。旧システムは1.5世代ほど前のまさに‘旧’い計算機システムであるので、これを機会に、政府調達の手順に従って更新することになった。

2. 新システムの構成

新システムの機種は、日本電気(株)製 ACOS システム 3700 / 8 であり、政府調達手続きに則った入札により決定された。システムの構成の概略を図1に示す。以下に各装置の性能、容量などについて簡単に紹介する。

(1) 中央処理装置

いわゆる CPU は1台、主記憶容量は128MBで、旧システムの約2倍の処理能力をもつ。冷却方式は水冷である。

(2) 磁気ディスクシステム

総容量は61.3GBで、旧システムの約3.8倍である。アクセスの高速化のために磁気ディスク制御装置内蔵のキャッシュメモリ64MBを装備している。これにより、会話型処理の応答時間の短縮や各種ファイルの自動バックアップ処理の高速化が実現される。

(3) 入出力システム

利用者による入出力はすべて端末からであるが、メールやBBSメッセージなどの利用者データ、システムファイルなど重要なデータの定期的なバックアップと、システムのインストールや試験に必要な入出力装置が接続されている。特に、カートリッジ・タイプ磁気テープ装置の導入はバックアップ作業の効率を高めるのに非常に有効である。また、レーザービーム・プリンタもより高速な装置になった。

(4) 通信制御システム

利用者はすべて通信回線経由の端末から電子メールシステムを利用する。利用可能な通信回線として、従来の学術情報ネットワーク・パケット交換網、DDXパケット交換網および公衆電話回線網のほかに、学術情報ネットワークのIP網であるSINETの運用に伴いインターネットが加わった。この処理のために、LANプロセッサが通信制御系装置に追加された。一方、公衆電話回線網に対して、これまでの利用状況から回線速度の構成が見直されて、9,600bps回線が増強され、1993年3月末に300bps回線が廃止されることになった(別掲記事P.13参照)。

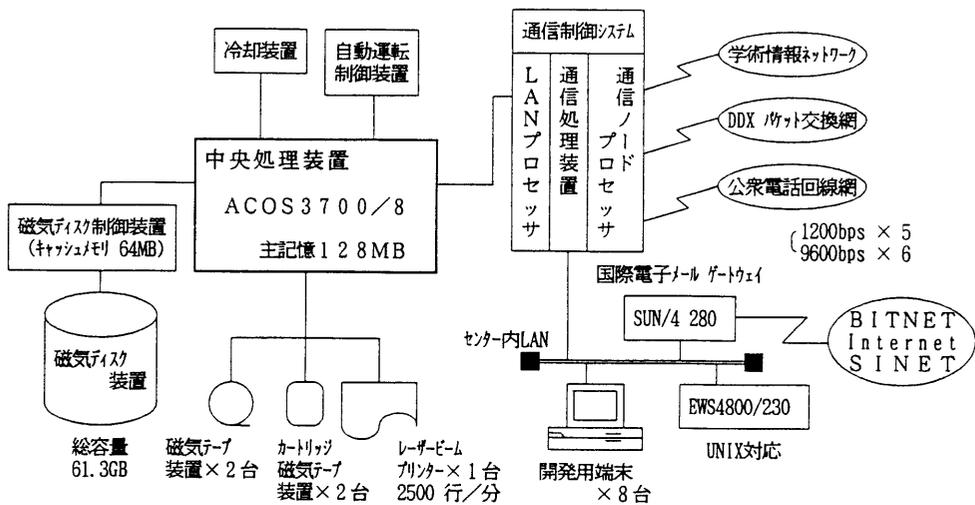


図1 電子メールシステム 構成図

(5) UNIX 対応のワークステーション

後述の新しいサービスに対応するため、UNIX 対応のワークステーション日本電気(株)製 EWS4800 / 230 が導入された。これはセンター内 LAN の電子メールシステム用サブネットに接続され、LAN プロセッサを介して電子メールシステムの新サービス用フロントエンド・プロセッサとして働く。

(6) 自動運転制御装置

電子メールシステムでは 24 時間運転を実施しているが、CAT と IR のシステムを含めて運用の省力化のために、自動運転制御装置により運転制御と空調など環境を含む状況監視を行っている。新電子メールシステムでは、特に運転監視について障害時に迅速な対応ができるように機能強化が行われている。

3. 新電子メールシステムにおける新しいサービス

新電子メールシステムでは、既存のサービスである国内・国際電子メール (NACSIS-MAIL)、電子掲示板 (NACSIS-BBS) およびディレクトリ・サービスに対して機能強化が行われて提供される。この中の一つに、国際電子メールの宛先の記述方法がより一般的になるようにゲートウェイの変換方式をインターネットにおける標準の方式に変更する計画がある。

このような機能強化に加えて、SINET によりインターネット・コミュニティと通信可能になることを利用して、インターネットにおける ネットワーク・ニュース' および 'Anonymous FTP' のサービスを計画している。ワークステーションをフロントエンド・プロセッサとして、新電子メールシステムをその大容量磁気ディスクを利用したニュースおよびファイルのサーバとすることである。ネットワーク・ニュースに関しては、特に、クライアント機能を含めて既存の BBS との連携が重要であり、必要な機能を開発中である。現在、BBS との連携機能の開発と共に新サービスの運用に必要な機能の整備が 1993 年 3 月を目標に進行中である。国際電子メールの宛先の新記述方法と新サービスの開始時

期は確定後あらためてお知らせする。

既存サービスの強化機能については別掲記事 (P.8, P.14) を参照していただくことにして、ここでは新サービスの概略を紹介する。

(1) ネットワーク・ニュースのサービス

インターネットでは、'ネットワーク・ニュース'として種々の情報がニュースサーバ機能をもつホスト計算機に蓄積され、サーバ間のニュース交換を通じて流通している。利用者がニュースを読んだり投稿するには、クライアント・システムから適当なサーバに要求のコマンドを送ればよい。

新電子メールシステムでは、SINET を介してインターネット上の一つのニュースサーバとしてサービスすると同時に、既存のBBSを利用している中でクライアントとしてこのネットワーク・ニュースを読み、投稿できる機能をBBS利用者に提供する。ニュースサーバ機能は主としてフロントエンド・プロセッサとしてのEWS 4800で処理されるが、ニュースの蓄積にはACOSシステムの磁気ディスク装置が使用され、ネットワーク・ファイルシステム(NFS)に基づいて連携処理される。またBBSからのクライアント機能はBBSの追加機能などACOS側の処理を中心にしてEWSとの連携作業が行われる。

(2) Anonymous FTP のサービス

インターネットにおける Anonymous FTP とは、ネットワーク上で公開されたファイルを、ファイルが置かれているホスト計算機のユーザ登録なしでファイル転送(FTP)により取り出すことができる機能である。新電子メールシステムでは、ACOSシステムの磁気ディスク装置に公開ファイルを置き、Anonymous FTP の機能をEWS上を実現してACOSとの間でNFSに基づいた連携処理が行われる。

実際の運用には、公開されるファイルの提供者や利用者の範囲に対して何らかの制約を課す必要性の有無など本センターの従来の利用規定との関係から検討すべき事柄がある。したがって、このサービスの機能自体に必要なソフトウェアとは別に、運用上の方針とその実施に必要な処理の検討が進められている。

4. おわりに

学術情報ネットワークのIP網SINETにより、本センターが提供するCAT, IR, MAIL, BBSの各サービスがより広く多数のネットワークに向けて提供され得るようになった。新電子メールシステムではSINETを通じて上述のような新しいサービスを広く提供することを目標とした。一方、国際標準のOSIによるサービスについては、現在はパケット交換(X.25)上のMHSのみであるが、製品化に合わせ導入が可能なシステムとした。今後も新しいサービスを提供できるように柔軟なシステムを構築したいと考えている。

学術情報ネットワークの整備・拡充とサービス停止

1. 学術情報ネットワークの拡充整備

学術情報センターでは、学術情報の流通基盤となる通信網の提供を目的とした学術情報ネットワークパケット交換網およびインターネット・バックボーン (SINET) の運用を行っておりますが、平成5年1月末までに、より効率的なネットワーク運用を実現し、サービスの向上を図るため、以下の整備・拡充を行います。

(1) パケット交換機能の拡大

パケット交換網の利用において、従来、パケット交換の機能は学術情報センターのみの集中交換を行っていましたが、トラフィックが集中している北海道、東北、京都、大阪および九州の各地区の主要ノードにおいてもパケット交換を行うようにします。これにより、高速デジタル回線の効率的な運用を図ります。

(2) SINET 幹線網の増強

本センターと各 SINET ノード（北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学および九州大学）間的高速デジタル回線を、現行の 128Kbps または 256Kbps から 512Kbps に増強し、より高速での通信を可能とします。

(3) SINET のバックアップ回線の設置

SINET の幹線網の障害時などにおいてもネットワークのノンストップ運用を可能とするために、バックアップ回線として、ISDN 回線 (INS ネット 64) を SINET ノード機関および学術情報センターに敷設します。

(4) SINET 地域集線機能の設置

学内 LAN の整備が進んでいる機関が集中している地域のトラフィックを効率的に SINET に収容することを目的とした「SINET 地域集線機能」をパケット交換網ノードへ整備します。これに必要な集線用の通信機器（集合型ルータ）とインターネット専用の通信回線を、今年度は千葉大学、電気通信大学、横浜国立大学および神戸大学の 4 機関に設置します。今後も、SINET ノードと並行して整備していく計画です。

2. ネットワークの運用停止

上述の学術情報ネットワークの整備拡充作業に伴い、下記期間中は学術情報ネットワークパケット交換網の運用を停止させていただきますので、ご了承いただきたくお願いします。また、学術情報ネットワークの加入機関に対しましては、別途、直接ご連絡します。

学術情報ネットワークパケット交換網運用停止期間

平成5年1月23日（土）	午前0時から
平成5年1月27日（水）	午前9時まで

なお、上記期間中でも作業の内容によっては、パケット交換網の一部の区間で利用可能なことがあります。利用を保証するものではありませんので、予めご承知おきくださるようお願いいたします。また、本センターのサービスである情報検索サービス (NACSIS-IR)、目録所在情報サービス (NACSIS-CAT) および電子メールシステム (SIMAIL) の利用については、NTT のパケット交換網 (DDX-P) および公衆網を経由して利用することが可能です。

SINET については、上記期間中、ISDN 回線によるバックアップ運用を行いますので、原則として利用は可能ですが、回線速度の切替作業時に若干の運用停止が予想されます。具体的な停止の日時については、SINET 加入機関に対して電子メールにてお知らせします。

(ネットワーク係)

インターネット経由での学術情報センター利用

平成5年1月より、各大学などのLANに接続されたパソコン端末やワークステーションから、インターネット経由で学術情報センターの次のサービスが利用できるようになりますので以下に紹介します。

- (1) 情報検索サービス (NACSIS-IR)
- (2) 目録所在情報サービス (NACSIS-CAT, ILL)

このサービスに対応する接続プログラム(UIP)が端末側に必要となります。

- (3) 電子メールサービス (NACSIS-MAIL)

これらのサービスを利用するためには、表-1に示す各ホストへtelnetで接続してください。

当センターをtelnetで利用するときの基本的な接続例を以下に示します。

情報検索サービスの利用例

電子メールサービスの利用例

```

X telnet 157.1.16.2
Trying...
Connected to 157.1.16.2
Escape character is '^J'.

VOS3 XNF/TCP 01-00 TELNET Service Ready

The following application ids are available to TELNET.
The default is TSSTA

Valid Terminal Types
01 - LINE MODE (JIS7)      02 - LINE MODE (EUC)
03 - LINE MODE (SHIFTJIS) 04 - LINE MODE (ASCII)

Please enter terminal identification number:

01
JET12012A ENTER USERID -
    
```

```

X telnet 157.1.32.2
Trying...
Connected to 157.1.32.2
Escape character is '^J'.

NACSIS MHS SYSTEM ON mm/dd/yy AT hh:mm:ss ~
USER ID -
    
```

表-1 インターネット経由で利用できる学術情報センターのホスト

通称	NACSIS-IR	NACSIS-CAT	NACSIS-MAIL
ホスト名	ir.nacsis.ac.jp	cat.nacsis.ac.jp	simail.nacsis.ac.jp
IPアドレス	157.1.16.2 *	157.1.16.1 *	157.1.32.2 *
端末モード	LINE **	LINE	LINE
漢字コード	新 JIS ***	新 JIS	新 JIS
ビット長	7ビット	7ビット	8ビット
機種名	HITAC M-880/210	HITAC M-880/420	ACOS システム 3700
O S 名	VOS3/AS	VOS3/AS	ACOS6/NVX

- * | 表-1に示すIPアドレスは今後変更されることがありますので、センターニュースなどでお知らせにご注意下さい。
- ** 「Valid Terminal Types」の01指定時以外は「FULL SCREEN MODE」となります。
- *** 当面の処置として、シフト JIS, EUC コードも準備いたします。

利用機能はtelnet(サーバ)機能のみとなります。

割り込み方法としては「telnet の breakシーケンス」をご利用下さい。

(システム業務係)

NACSIS-IR における 画面表示の中断方法のご確認を！

1. NACSIS-IR における画面表示とその中断

NACSIS-IR では、多数の検索結果を一度に表示指示した際に表示を中断したい場合があります。このような時、コマンドは入力できませんので、その代わりに「割り込み（ブレイクともいいます）」信号を送ることにより、表示は中断します。

特に、DISPLAY コマンドにおいて、検索結果集合中の何番目のレコードを表示するかを指示するオペランド（I. 数字）を省略すると、集合中の全レコードを表示することになります。従って、件数の多い集合に対する DISPLAY について、I. 数字のオペランドを指定し忘れた場合には、画面表示の中断方法を知らなければ、表示が終了するのに時間がかかってしまいます。その上、経費区分 A のデータベースでは、接続時間および表示件数に係る課金が多額になってしまいますので、注意してください。

2. 「割り込み」信号を送る方法

「割り込み」信号を送る方法は、お使いになるパソコンなどや通信ソフトウェアによって異なります（パソコンなどが同じ機種であっても通信ソフトウェアが違えば「割り込み」信号を送る方法は異なります）。更に、学術情報センターとの通信経路によっても異なることがあります（特に、計算機センターなどを経由している場合、送信した「割り込み」信号を計算機センターなどで拾ってしまい、学術情報センターにまで送るためには更に別の操作が必要な場合があります）。

NACSIS-IR を利用する際にお使いになるパソコンなど、通信ソフトウェア、通信経路について、それぞれのマニュアルなどを読む、もしくは、よくご存知の方に尋ねるなどの方法で、「割り込み」信号の送り方を検索を開始する前に予め確認してください。

なお、「割り込み」信号を送ってから実際に表示が中断するまでに多少時間差がありますので、直ちに表示が止まらないからといって、必要以上に「割り込み」信号を続けて送らないでください（通信上のトラブルの原因になることがあります）。

3. 「割り込み」信号の機能

「割り込み」信号には、上記の画面表示中断の他に次の機能があります。

- (1) SEARCH, PHRASE, LIMIT コマンドなどで検索を行っている際に、検索を中断する。
- (2) NACSIS-IR 側から何か入力を求めるメッセージが出ているが、何をいれてよいか判らない場合に、TYPE IN COMMAND に戻る。

(データベース課)

NACSIS-BBS の機能追加

平成5年1月4日(月)から、電子掲示板サービス(NACSIS-BBS)に下記の機能が追加されます。

1. 機能の概要

機 能 内 容	対象コマンド
メッセージ参照回数の表示の追加	L, R
掲示板移動コマンドに番号選択の追加	G
掲示板の階層構造の表示	BT
ユーザプロファイルにより、設定可能となる内容	L, R W, C
有効期限の日付表示と日付入力	W, C
未読メッセージの認識*	L, R BL, RSET, RRESET

* この機能を利用する場合は、「/..BBS」のカタログを作成しておいてください
 (カタログの作成は、ユーザプロファイルの設定例を参照してください)。
 参照したメッセージの情報は、「/..BBS/REFER」に保存されています。

2. コマンド機能詳細

以下の説明は、今回追加した機能を中心に説明しています。従来からの機能は継続して利用できますが説明を省略しています。

(1) 掲示板の階層構造の表示コマンド

〔機能〕 掲示板の階層構造をツリー形式で表示を行う。

BT	〔階層の深さ〕
----	---------

階層の深さ：1から7の数字。

省略時 : 全ての階層を表示する。

(利用例)

```

BBS001 R コマンド [BL, G, B, T, L, W, R, DEL, -END] ?BT
掲示板名-----+----- 掲示板情報 -----+BOARD# +MESS#
+-A1                I 掲示板情報A 1                I 0001 I 0000
+ +-A11             I 掲示板情報A 1 1            I 0000 I 0000
+-B1                I 掲示板情報B 1                I 0015 I 0000
+ +-B11             I 掲示板情報B 1 1            I 0001 I 0000
+ + +-B111          I 掲示板情報B 1 1 1          I 0000 I 0000
+ +-B12             I 掲示板情報B 1 2            I 0003 I 0000
+ + +-B121          I 掲示板情報B 1 2 1          I 0009 I 0000
+ + + +-B1211       I 掲示板情報B 1 2 1 1        I 0000 I 0000
BBS012 R MORE [RETURN OR ANY-COMMAND] ?
    
```

(2) 掲示板移動コマンド

〔機能〕 掲示板の位置付けを移動する。

掲示板名を直接入力する方法と、掲示板名を省略した場合があります、省略した場合は、掲示板の一覧を表示し、番号選択により移動できる。

G	[掲示板名 [. 掲示板名…]]
---	------------------

掲示板名：移動する掲示板の名称を階層構造順に入力する。

省略時：掲示板の一覧が表示され、目的の掲示板番号を入力する。

(利用例)

BBS001 R コマンド [BL, G, B, T, L, W, R, DEL, -END] ?G
NO--+掲示板名+----- 掲示板情報 -----+BOARD# +MESS#
¥ I メイン掲示板
001 I AAA I 掲示板情報A A A I 0000 I 0000
002 I BBB I 掲示板情報B B B I 0000 I 0000
BBS021 R NEXT [¥, NUMBER, RETURN, ANY-COMMAND] ?

(3) メッセージの既読状態への設定コマンド

〔機能〕 位置づけられている掲示板の中のメッセージを既読状態に設定する。

R S E T	[メッセージ番号] [-] [メッセージ番号]
---------	-------------------------

メッセージ番号：指定した範囲のメッセージ番号のメッセージを既読状態に設定する。

省略時：全てのメッセージを既読状態に設定する。

(4) メッセージの未読状態への設定コマンド

〔機能〕 位置づけられている掲示板の中のメッセージを未読状態に設定する。

R R E S E T	[メッセージ番号] [-] [メッセージ番号]
-------------	-------------------------

メッセージ番号：指定した範囲のメッセージ番号のメッセージを未読状態に設定する。

省略時：全てのメッセージを未読状態に設定する。

(5) メッセージ内容表示コマンド

〔機能〕 メッセージの表示を行う。

R	[N] [メッセージ番号]
---	-----------------

N：未読メッセージの内容表示

メッセージ番号：メッセージ番号範囲

(6) メッセージ主題表示コマンド

〔機能〕 メッセージの主題を一覧表示する。

L | [N] | [メッセージ番号]

N : 未読メッセージの主題表示
 メッセージ番号: メッセージ番号範囲

(利用例)

```

BBS001 R (INF) コマンド [BL, G, B, T, L, W, R, DEL, -END] ?L N
番号-----+-----メッセージ情報-----+-----USERID+-----日付-----+-----READ#*
*000001 I メッセージ主題 1 I A00000 I yy/mm/dd I n
*000002 I メッセージ主題 2 I A00000 I yy/mm/dd I n
*000003 I メッセージ主題 3 I A00000 I yy/mm/dd I n
*000004 I メッセージ主題 4 I A00000 I yy/mm/dd I n
*000005 I メッセージ主題 5 I A00000 I yy/mm/dd I n
*000006 I メッセージ主題 6 I A00000 I yy/mm/dd I n
*000007 I メッセージ主題 7 I A00000 I yy/mm/dd I n
*000008 I メッセージ主題 8 I A00000 I yy/mm/dd I n
*000009 I メッセージ主題 9 I A00000 I yy/mm/dd I n
*000010 I メッセージ主題 10 I A00000 I yy/mm/dd I n
BBS012 R MORE [RETURN OR ANY-COMMAND] ?
    
```

未読メッセージの場合は、メッセージ番号の先頭に「*」が付く。
 READ#の欄にメッセージが読まれた回数を表示する。

(7) 掲示板一覧表示コマンド

〔機能〕 下位の掲示板情報の一覧を表示する。

B L

(利用例)

```

BBS001 R (LIB) コマンド [BL, G, B, T, L, W, R, DEL, -END] ?BL
掲示板名+-----+-----掲示板情報-----+-----BOARD#+MESS#
*AAA I掲示板情報A A A I 0000 I 0246
*BBB I掲示板情報B B B I 0000 I 0019
BBS001 R (LIB) コマンド [BL, G, B, T, L, W, R, DEL, -END] ?
    
```

未読メッセージが存在する場合は、掲示板名の先頭に「*」が付く。

(8) メッセージ掲載コマンド

〔機能〕 掲示板にメッセージを書き込む。

W	
---	--

有効期限入力時に既定値のメッセージ有効日数に併せて有効期限の表示があります。
有効期間の入力には、3通りの入力方法があります。

- ・空行入力（既定値を利用する。）
- ・有効日数の入力（数字入力）
- ・有効期限の入力（yy/mm/ddの形式で日付を指定する。）

(利用例)

BBS001 R (HAJIME) コマンド [BL, G, B, T, L, W, R, DEL, -END] ?W
BBS003 R 主題 ?主題設定
BBS014 R 有効日数 (nn) または有効期限 (yy/mm/dd) ?
BBS011 R メッセージの存在するファイル名 ?
*本文入力
*
BBS052 I メッセージを書き込みました メッセージ番号 : 00000n
BBS001 R (HAJIME) コマンド [BL, G, B, T, L, W, R, DEL, -END] ?

3. ユーザプロファイルにより設定可能な内容

ユーザプロファイル機能を利用する場合は、「../BBS/PROFILE」に設定内容を保存してください。

キーワード	内 容
LIST	L コマンド実行時の表示条件の設定
READ	R コマンド実行時の表示条件の設定
ENDMARK	本文メッセージ入力終了文字列の設定
SEQUENCE	メッセージ表示順の設定
NOREFBOARD	未読メッセージ存在時の掲示板一覧表示の設定
NOREFLIST	未読メッセージ存在時のメッセージ主題一覧表示の設定
NOREFREAD	未読メッセージ存在時のメッセージ内容一覧表示の設定

NOREFBOARD, NOREFLIST, NOREFREAD は電子掲示板利用開始時に該当掲示板に未読メッセージが存在すると表示します。

4. ユーザプロフィールの詳細

キーワード	
LIST	L コマンド実行時の表示条件の設定 パラメータ NOREF : 未読メッセージのみ表示する。 省略時 : 全てのメッセージを表示する (既定値)。
READ	R コマンド実行時の表示条件の設定 パラメータ NOREF : 未読メッセージのみ表示する。 省略時 : 全てのメッセージを表示する (既定値)。
ENDMARK	本文メッセージ入力終了文字列の設定 パラメータ 半角 20 字以内の文字列を設定する (大文字小文字の認識をする)。 設定された文字列が入力された場合に、本文の入力を終了する。 省略時 : 空行入力により本文の入力を終了する (既定値)。
SEQUENCE	メッセージ表示順の設定 パラメータ BEFORE : 最新メッセージから順に表示する。 省略時 : 書込まれた順に表示する (既定値)。
NOREFBOARD	未読メッセージ存在時の掲示板一覧表示の設定 パラメータ 掲示板名称 : 対象とする掲示板名称を掲示板の階層順に記述する。 最大 10 件まで設定できる。
NOREFLIST	未読メッセージ存在時のメッセージ主題一覧表示の設定 パラメータ 掲示板名称 : 対象とする掲示板名称を掲示板の階層順に記述する。 最大 10 件まで設定できる。
NOREFREAD	未読メッセージ存在時のメッセージ内容一覧表示の設定 パラメータ 掲示板名称 : 対象とする掲示板名称を掲示板の階層順に記述する。 最大 10 件まで設定できる。

5. ユーザプロフィール設定例

次の内容を TEXT エディタを利用して作成することにより設定できます。

(ファイルを作成する前に「/..BBS」のカタログを次の要領で作成してください。

SYSTEM ?CCAT△/.. BBS 下線部が入力です。△は半角の空白です。

ユーザプロフィールの内容

SYSTEM ? <u>TEXT</u> △N	TEXT エディタの利用開始 (新規作成)
- <u>I</u> △, END	挿入モード (入力終了はEND)
0001△ <u>LIST</u> =NOREF	L コマンドの時に未読のメッセージのみ表示する
0002△ <u>READ</u> =NOFEF	R コマンドの時に未読のメッセージのみ表示する
0003△ <u>SEQUENCE</u> =BEFORE	最新メッセージ順に表示する
0004△ <u>ENDMARK</u> =END	本文入力終了文字列に「END」を指定する
0005△ <u>NOREFBOARD</u> =NACSIS	BL コマンドの未読掲示板の掲示板名を設定する
0006△ <u>NOREFBOARD</u> =LIB, CAT	BL コマンドの未読掲示板の掲示板名を設定する
0007△ <u>NOREFLIST</u> =NACSIS	L コマンドの未読メッセージ掲示板名を設定する
0008△ <u>NOREFLIST</u> =LIB, CAT	L コマンドの未読メッセージ掲示板名を設定する
0009△ <u>NOREFREAD</u> =NACSIS	R コマンドの未読メッセージ掲示板名を設定する
0010△ <u>NOREFREAD</u> =LIB, CAT	R コマンドの未読メッセージ掲示板名を設定する
0011△ <u>END</u>	挿入モード終了
- <u>W</u> △/.. BBS/PROFILE	ファイルに保存する
- <u>E</u>	TEXT エディタの利用終了
SYSTEM ?	

(システム管理課)

電子メールシステム用電話回線 (300bps) の廃止

300bps 用電話回線 (03-3942-8081) のサービスを平成 5 年 3 月 30 日をもって廃止させていただきますこととなりました。

公衆電話回線によるコンピュータ利用は 300bps から普及してきましたが、その後 1200, 2400, 9600bps へと通信速度は飛躍的に向上しており、もはや今日では 300bps の実用上の役目は終えようとしています。本センターの電子メールシステムの利用状況においても利用頻度は極めて少なく、この度廃止させていただきますこととしましたので何卒ご了承ください。

なお、2400/9600bps については平成 5 年 4 月 1 日より回線数を増強する予定です。

(システム管理課)

NACSIS-MAIL ディレクトリ コマンドの機能追加

平成5年1月4日（月）よりディレクトリコマンドに以下の機能が追加されます。

1. 追加機能概要

- (1) コマンド入力ラインの入力可能なコマンドガイドの表示
- (2) F (FIND) コマンドの追加

2. 機能詳細

- (1) コマンドの入力する位置で、入力可能なコマンドの案内を表示します。

例

DIR001 R コマンド (S,F,D,SEL,ORN,MA,NIC,L,ADD,DEL,M,REN,END,DONE) ?

- (2) F コマンドの機能

従来からある S (SEARCH) コマンドと同様に検索を行うためのコマンドですが、S コマンドが特定項目について検索するのに対し、F コマンドは全ての項目について検索の対象とします。

F	〔検索文字列〕〔*〕
---	------------

検索文字列を省略した場合は検索文字列を問い合わせます。

検索文字列の後ろに「*」を指定すると前方一致で検索します。

S コマンドと異なる点を下表に示します。

S コマンド		F コマンド	
検索項目の指定	検索対象	検索項目の指定	検索対象
O.	組 織 名	な し	組 織 名
D1.	部 門 名 1		部 門 名 1
D2.	部 門 名 2		部 門 名 2
S.	姓		姓
N.	名		名
U.	利用者番号		利用者番号

(システム管理課)

データベースの改訂

－ MathSci, SciSearch, Social SciSearch, A&H Search, ISTP&B －

1. MathSci

「MathSci」データベースは現在、「MR」「CMP」のファイルを収録していますが、このたび新たに5つのファイルが追加され、下記の7ファイルをサービスすることとなりました。併せて、項目の追加・変更、出力モード、表示形式の変更を行います。

ファイル名	分野	対応誌	収録年
MR	数 学	Mathematical Reviews	1973～
CMP	数 学	Current Mathematical Publications	1988～
CIS	統 計 学	Current Index to Statistics	1975～
TUKEY	統 計 学	Index to Statistics and Probability	1902～1968
CR	コンピュータ科学	Computing Reviews	1984～
GCL	コンピュータ科学	ACM Guide to Computing Literature	1981～
STR	コンピュータ科学	Technical Reports in Computer Science	1954～

2. SciSearch, Social SciSearch, A&H Search, ISTP&B

標記のデータベースについて、下記の項目が追加されました。これに伴い、出力モード、表示形式の変更を行います。

- ・発行日の情報
- ・国際標準逐次刊行物番号 (ISSN)
- ・都市・地域名…ISTP&B を除く
- ・著者付与キーワード…ISTP&B を除く
- ・ISI 社付与キーワード…ISTP&B を除く
- ・著者抄録…A&H Search, ISTP&B を除く

3. サービス開始時期

「MathSci」データベースは、平成5年1月、その他4種のデータベースは平成5年4月を目処に準備を進めています。なお、日程が決まり次第、オンラインニュースなどでお知らせします。データベースの内容については、サービス開始時に発行予定の「NACSIS-IR データベースシート」をご覧ください。

(データベース課)

学術論文データベース第二系（化学） の収録対象雑誌の拡大

平成4年11月20日（金）から、「学術論文データベース第二系（化学）」に新たに次の雑誌が加わりました。利用方法は従来の5誌と同様です。

雑誌名：日本セラミックス協会学術論文誌
(Journal of the Ceramic Society of Japan)
発行学会：社団法人 日本セラミックス協会
収録開始：Vol.97, No.8 (1989) 以降

追加となる雑誌に関係するデータベース上のコードなどの情報は以下の通りです。

1. 掲載雑誌の英字略称, ISSN, CODEN

掲 載 誌 名	英字略称	ISSN	CODEN
日本セラミックス協会学術論文誌	NS	0914-5400	NSKRE2

2. 学会コード

学 会 名	コ ー ド
日本セラミックス協会	06

3. 論文種類コード

掲 載 誌 名	論 文 の 種 類	論文種類コード
日本セラミックス協会学術論文誌	総説 (Review)	REV
	論文 (Paper)	ART
	テクニカルレポート (Technical report)	ART
	セラミック・レター (Ceramic letter)	SHO
	ノート (Note)	NOT
	討論, ディスカッション (Discussion)	DIS

(データベース課)

「平成4年度学術研究活動に関する調査」集計

－中間報告－

学術情報センターでは、学術情報のいっそうの流通を図るため、既に当センターで提供している研究者の研究活動に関するデータベース（「研究者ディレクトリ」昭和63年5月1日現在調査）の更新・充実を目的とする標記調査を実施しました（調査の概要については、センターニュース第21号をご覧ください）。

調査対象となりました機関ならびに研究者の方々には、お忙しい最中にもかかわらずご協力いただき、ありがとうございました。現在、回収しました調査票を基に、鋭意データベースの作成を進めています。

今回の調査の回収状況（12月1日現在）は下記の通りです。

	機 関 数		研 究 者 数	
	回 収 数	回収率(%)	回 答 数**	回答率(%)***
国 立 大 学	97	98.0	51,666	96.3
公 立 大 学	37	90.2	5,897	96.3
私 立 大 学	359	93.5	55,824	93.3
国立短期大学*	35	89.7	1,258	98.1
公立短期大学*	42	79.2	1,374	92.5
私立短期大学*	442	88.6	14,499	96.7
国立高等専門学校	54	100.0	3,415	98.8
公立高等専門学校	5	100.0	358	100.0
私立高等専門学校	3	100.0	171	100.0
大学共同利用機関等	28	84.8	1,438	99.2
文 部 省 所 管 民間学術研究機関	92	60.9	875	91.7
合 計	1,194	87.7	136,775	95.2

* 大学の短期大学部を含みます。

** 研究者数の回答数は、研究者本人の回答以外に事務局が代わりに回答した数を含みます。

*** 研究者数の回答率は、回収した機関に所属する研究者総数を100としています。

なお、来年度に研究分野、研究課題などの別項目の調査を予定しています。今回の調査と併せることにより、充実したデータベースとなりますので、来年度調査にもご協力くださるようお願いいたします。

（データベース課）

学術情報センター利用の継続手続き

平成5年度も引き続き学術情報センターシステム（情報検索サービス、電子メールサービスおよび国際電子メールサービス）を利用する場合は、以下の方法により継続の申請を行ってください。継続の申請が承認された場合は、「利用承認書（継続）」を発行します。利用承認書の発行は2月下旬から送付を開始しますが、3月末までに届かない場合は、共同利用係まで問い合わせてください。

なお、支払科目を変更する場合、文部省科学研究費補助金を支払科目とする場合および利用期限が3月末日でない場合は継続申請を行うことはできません。

また、平成4年度の新規および追加の受付は平成5年2月26日（金）まで、変更および取消の受付は平成5年3月30日（火）までとなります（平成5年3月31日は年度未処理のためサービスを休止します）。

1. 学術情報センターへの直接申請による利用者の場合

1月下旬に、利用者宛へ継続利用申請書（あらかじめ今年度の情報が出力してある）を送付しますので、各項目を確認・押印のうえ、継続利用申請書を受付期間内（平成5年2月1日（月）～平成5年3月19日（金））に返送してください。

なお、詳細は同封する記入要領および留意事項をご覧ください。

また、継続申請時に利用サービスを変更することはできませんので変更する場合は、別途申請を行ってください。

2. 大型計算機センター経由による利用者の場合

利用者が所属する大型計算機センターへ継続申請してください。所定の手続きを行ったのち、所属センターのコマンド受付期間内に、第二センターとして学術情報センターの継続申請を、第二センター申請コマンド（継続）で行ってください。学術情報センターの受付期間は、平成5年2月1日（月）～平成5年3月19日（金）になります。受付期間を過ぎた場合は、継続申請を行うことができませんので、平成5年4月以降に新規で申請してください。

なお、第二センター申請コマンドの詳細は所属する大型計算機センターへ問い合わせてください。

（共同利用係）

科学研究費による利用期限（2月15日）

学術情報センターシステムの利用料金の支払いが、文部省科学研究費補助金によるものの利用期限は、平成5年2月15日（月）までになります。利用料金の請求（納入告知書）は、平成5年2月20日頃に送付する予定です。

なお、利用料金の支払いが文部省科学研究費補助金のみの方は、利用料金参照機能（CHARGE コマンド、平成4年3月発行「NACSIS 利用の手引」参照）が平成5年2月15日以降使用できません。利用料金の請求明細が必要な方は、データベース検索終了時に表示される利用料金の内訳をご利用ください。

（共同利用係）

NACSIS-ILL の運用状況 (1992年4月～9月)

ILLシステムが稼働して半年が経過しましたが、その間の利用状況を以下に紹介します。

1. 参加館の増加とレコード件数の増大

1. 1 参加館の増加

9月末時点で実際にILLシステムを利用して相互貸借業務を行った館は表1のように240の参加組織でした。この数は相互貸借業務を行っている大学図書館790館（大学図書館実態調査による）に対して、約3割を占めています。

月別に参加の状況（表2）をみてみますと、複写業務については大部分の館が4月当初より利用しており、月間10館程度の新規利用館があります。それに対して、貸借業務の方は運用当初の利用館は少ないものの、その後の新規参加館の数はむしろ複写業務の場合よりも多くなっています。

表1 ILLシステムの利用館

	国立	公立	私立	その他	計
機関数	89	2	37	7	135
参加組織数	188	2	43	7	240

表2 新規利用館の月別変化

	複写の依頼館		貸借の依頼館	
	新規	累積	新規	累積
4月	184	184	105	105
5月	15	199	26	131
6月	17	216	24	155
7月	10	226	15	170
8月	6	232	2	172
9月	6	238	11	183

1. 2 レコード件数の増大

ILLレコードの作成件数については、4月の運用開始当初から順調に増加しており、しかも安定的な増加傾向を示していますが、1日当たりの平均レコード作成件数を月別にみてみますと、981件（4月）、1,090件（5月）、1,190件（6月）、1,118件（7月）、887件（8月）、1,301件（9月）という具合に7～8月の夏季休業期間を除いて増加傾向は明白となっています。

平成2年度における大学図書館全体での1日平均の依頼件数が2,121件でしたので、レコード件数からするとすでに大学図書館全体の過半数に相当する量が処理されていることとなります。

2. ネットワークの拡大

2. 1 館種間の流動

ILLシステムの特長のひとつは、相手館の種別に関わらずILLレコードという同一様式によって依頼できることであり、このことを契機に国公私の枠を越えた相互協力の発展が期待されます。国公立大学間の流動量をみてみますと、依頼館と受付館が共に国立大

学であるケースが大多数を占めていますが、私立大学から国立大学への依頼件数と、逆の国立大学から私立大学への依頼件数がほぼ均衡しています。また、私立から国立の依頼件数は、私立どうしの件数を上回っています。これらのことから、私立・国立間の流動が決して少なくないといえそうです。

表3 図書館間の流動量（館種別）

依頼 \ 受付	国立大学	公立大学	私立大学	その他	計
国立大学	114,707 件	29 件	2,399 件	19 件	117,154 件
公立大学	183 件	1 件	44 件	0 件	228 件
私立大学	2,577 件	13 件	2,085 件	12 件	4,687 件
その他	196 件	15 件	89 件	0 件	300 件
計	117,663 件	58 件	4,617 件	31 件	122,369 件

2.2 地理的な流動

次に図書館どうしの依頼・受付件数の全体像を概観するための図を紹介します。図1の鳥瞰図は複写業務の件数に限定して作図したのですが、依頼館と受付館それに件数の3つの軸をもっています。右下を起点として、依頼館・受付館をおおきく国公立大学その他の機関といった設置者種別に配列し、さらにそのなかを北から南へと地理的に配列しています。例えば右下の起点付近のブロックは大まかにいうと北海道地区の国立大学どうしの件数を示しています。

この図から、西日本の国立大学からおなじ西日本の国立大学に依頼する件数が顕著であり、特徴的なブロック (A) を形成していることがわかります。また、国立大学の外国雑誌センター館のように (B)、全国から広く多く依頼がきている館が存在していること、あるいは、依頼館の方でも、依頼先が同一地域に限定されず全国的に広く依頼をしているケースなどの点が概観できます。

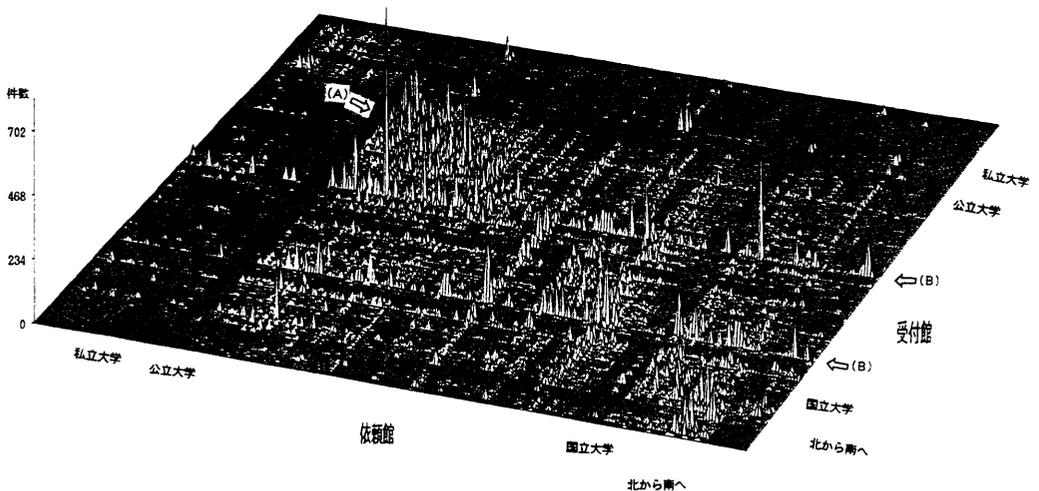


図1 図書館間の流動鳥瞰図

3. 処理日数と自動転送

3. 1 処理日数

複写業務の場合を例にして、依頼してから複写物が到着するまでの各段階についての所要日数を紹介します。なお、この場合の日数とは、土曜、日曜および祝祭日を除いた実際のシステム運用日をさしています。

3. 1. 1 依頼から到着まで

全体の処理日数であり、利用者に対して平均的な日数を示す際の参考になるものです。依頼して3~4日後に到着するケースが多く、過半数が4日後までには到着し、10日後までに全体の9割が到着しています。

3. 1. 2 依頼から受付まで

従来の葉書などによって依頼しているのに比べて最も効率化がみられたステップですが、過半数が依頼された当日中に受け付けられています。そして翌日までには全体の9割が受け付けられています。

3. 1. 3 受付から発送まで

この段階は、受付館の処理能力の指標ともなる日数ですが、過半数の場合が受け付けたその日か、あるいは翌日までに発送処理を行っています。4月のデータとその後の各月のデータを比較すると処理日数の短縮化傾向がみられます。このことは、受付館における業務体制が安定化しつつあることと、依頼そのものが、早く処理する受付館に集中しつつあることを示しているとも言えます。

3. 1. 4 発送から到着まで

このステップはILLシステムとは切り離された、多くの場合は郵送に関する日数ですが、発送した翌日には3割が到着し、翌々日までには過半数が到着しています。

3. 2 自動転送の効果

ILLシステムには、依頼先を複数指定しておく、最初の受付館で断られた場合でも自動的に次の館に転送される自動転送の機能があります。下図に自動転送が効果的に作用した例を紹介します。ともに依頼してほぼ1週間で資料が到着していますが、従来の方式で依頼していたら1か月は経過していたと思われる。

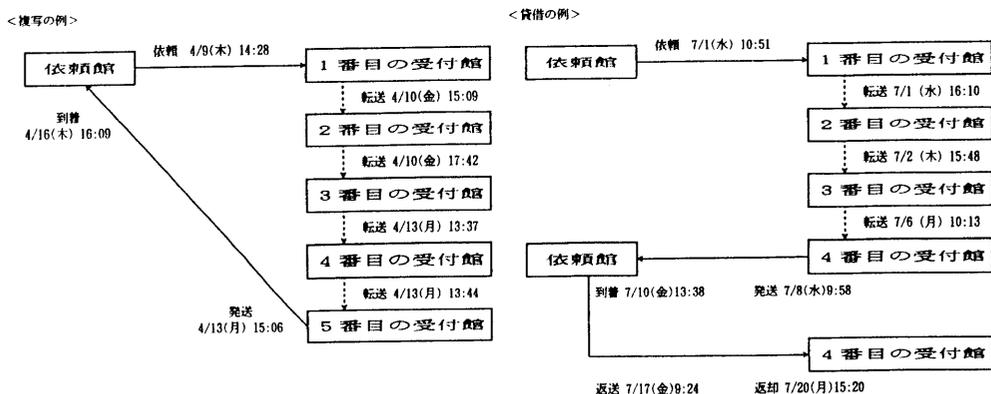


図2 効果的な自動転送の例

4. 利用される資料

4.1 資料の和洋区分

ILLシステムで利用した資料のレコードIDから判別すると、和資料が18.8%で、洋資料が80.8%、不明なものが0.4%でした。ILLで洋資料の利用率が高いのは、和資料と比較して各大学が網羅的に収集することには限界があることから当然と考えられます。なお、このおおまかな和洋の比率2:8は、例えば1週間分とか1か月分とかいった対象範囲を変えてみてもほぼ同程度の結果になっています。

4.2 資料の出版年別利用頻度

複写に限って、資料種別(和雑誌、洋雑誌、和図書、洋図書)ごとに出版年別の利用件数をグラフ化すると下図のようになります。概ね、全体の9割が過去30年分の資料でした。

このようなデータから、例えば30年を経過した資料を全国の大学図書館で保存する必要があるのか、それとも分担保存を進めるべきなのかといった検討が可能になると思われます。

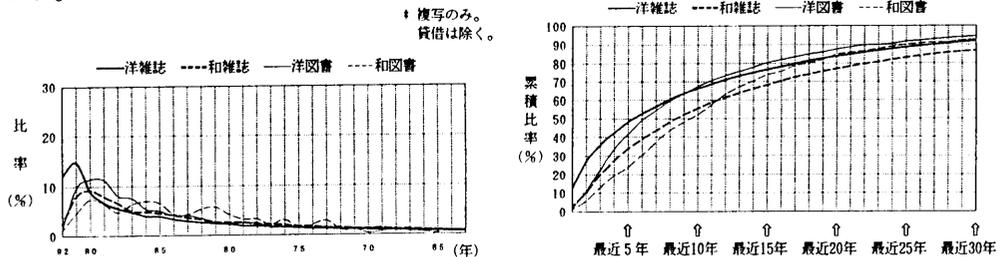


図3 資料の出版年別利用頻度

4.3 ILL利用件数とCATの所蔵件数

雑誌について、ILLシステムでの利用件数と総合目録データベース(CAT)での全国の所蔵件数との相関をプロットしてみますと下図のようになります。

ILLで利用が多いのは、所蔵件数がそれほど多くはない準コア的な雑誌と、創刊間もない雑誌およびレア雑誌であることが窺えます。

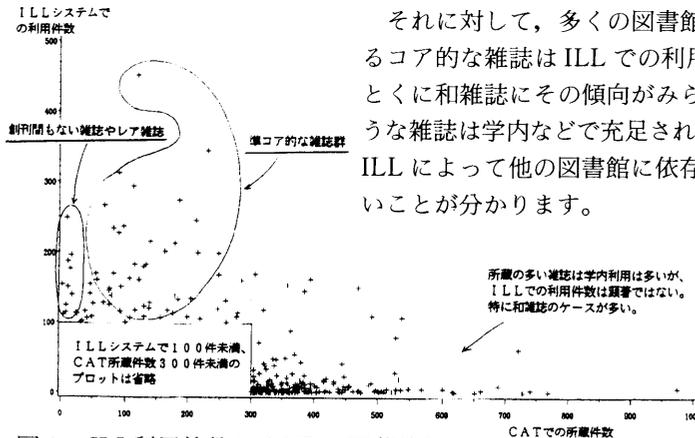


図4 ILL利用件数とCATの所蔵件数

(専門・電子情報係)

NACSIS-IR データベース収納状況 (1 / 2)

平成4年11月6日現在

No	データベース名称	収納件数	収録期間
1	科学研究費補助金 研究成果概要データベース	74,685	昭和60年度～
2	学位論文索引データベース	56,547	昭和59年度～
3	学会発表データベース第一系 (電気・情報・制御関連)	69,446	昭和62年3月～
4	学会発表データベース第二系 (化学関連)	18,797	昭和63年5月～
5	学会発表データベース第三系 (建築・土木・造園関連)	13,364	平成2年10月～
6	学会発表データベース第四系 (生物・農学関連)	1,177	平成2年3月～
7	学会発表データベース第五系 (理学関連)	234	平成3年1月～
8	学会発表データベース第六系 (工学関連)	264	平成2年1月～
9	学会発表データベース第七系 (医学関連)	807	平成2年度～
10	学会発表データベース第八系 (人文・社会科学関連)	534	平成2年6月～
11	学術論文データベース第一系 (全文) (電子関連)	456 1,976	平成元年度～
12	学術論文データベース第二系 (化学関連)	6,259	昭和58年1月～
13	海外研究プロジェクト データベース	80,972	平成4年1月末現在
14	民間助成研究成果概要データベース	665	昭和46年度～
15	経済学文献索引データベース	66,952	昭和58年4月～
16	学会予稿集電子ファイル	33,488	1969年4月～
17	雑誌記事索引データベース	887,022	1984年1月～
18	現行法令データベース	3,615	平成4年3月末現在
19	維新史料網要データベース	20,376	
20	木簡データベース	13,497	
21	研究者ディレクトリ	130,109	昭和63年5月現在
22	データベース・ディレクトリ	1,170	平成2年4月現在
23	家政学文献索引データベース	19,751	1979年4月～
24	R A M B I O S	5,382	1983年4月～
25	Life Sciences Collection	1,081,499	1982年1月～
26	MathSci	831,915	1973年1月～
27	COMPENDEX PLUS	2,430,617	1976年1月～
28	Harvard Business Review	2,605	1927年1月～
29	ISTP & B	1,898,150	1982年1月～
30	EMBASE	2,539,905	1984年4月～

NACSIS-IR データベース収納状況 (2 / 2)

No	データベース名称	収納件数	収録期間
31	SciSearch	3,978,235	1987年4月～
32	Social SciSearch	687,573	1987年4月～
33	A & H Search	634,631	1987年4月～
34	目録所在情報データベース (和図書)	671,042 5,078,015	
35	目録所在情報データベース (洋図書)	1,641,288 3,606,541	
36	目録所在情報データベース (和雑誌)	72,627 1,493,939	
37	目録所在情報データベース (洋雑誌)	111,159 904,004	
38	科学技術関係欧文会議録 データベース	31,210	昭和60年4月～
39	アメリカン・センター図書館 総合目録データベース	6,451	平成元年12月末現在
40	JPMARC	1,120,773	1969年1月～
41	LCMARC(Books)	3,331,661	1968年1月～
42	LCMARC(Serials)	551,392	1973年1月～

(注) No 34～37 のデータベースの上段は書誌件数, 下段は所蔵件数。(システム業務係)

接続ニュース

前号以降, 新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は, 以下のとおりです。

(平成4年11月末現在)

No	機関名	接続日	No	機関名	接続日
206	福島県立医科大学	4.8.7	217	学習院女子短期大学	4.10.6
207	阪南大学	4.8.7	218	大阪国際大学	4.10.8
208	江戸川大学	4.8.12	219	手塚山大学	4.10.15
209	新居浜工業高等専門学校	4.8.21	220	国立民族学博物館	4.10.20
210	神戸芸術工科大学	4.9.8	221	武蔵工業大学	4.10.22
211	沖繩国際大学	4.9.9	222	大阪電気通信大学	4.10.23
212	京都学園大学	4.9.10	223	京都橘女子大学	4.11.2
213	川村学園女子大学	4.9.21	224	大阪産業大学	4.11.4
214	職業訓練大学校	4.9.25	225	実践女子大学	4.11.18
215	専修大学	4.9.25	226	順天堂大学	4.11.19
216	手塚山短期大学	4.9.28	227	産業医科大学	4.11.24

この結果, 参加機関数は, 国立大学 96, 公立大学 12, 私立大学 101, 大学共同利用機関 11, 短期大学 3, 高等専門学校 1, その他 3, 合計 227 となりました。

(共同利用係)

NACSIS-CAT データベース構築状況

平成4年11月6日現在

データベース名称		収納件数	備考(収録期間等)	
総合目録データベース	和 図 書	書 誌	671,642	
		所 蔵	5,083,372	
	洋 図 書	書 誌	915,650	
		書 誌 (遡及)	726,517	
		所 蔵	3,610,166	
	和 雑 誌	書 誌	73,063	
		所 蔵	1,515,124	
	洋 雑 誌	書 誌	111,097	
		所 蔵	919,017	
	著 者 名 典 拠		596,204	
統 一 書 名 典 拠		2,145		
和 雑 誌 変 遷 マ ッ プ		8,554		
洋 雑 誌 変 遷 マ ッ プ		13,994		
参照ファイル	LC/MARC	洋 図 書 書 誌	4,005,638	1968年1月～1992年10月
		洋 雑 誌 書 誌	551,392	1973年1月～1992年10月
		非 文 字 書 誌	150,129	1973年1月～1991年 3月
		洋 書 著 者 名 典 拠	2,470,389	1977年1月～1992年10月
		洋 書 統 一 書 名 典 拠	131,112	1977年1月～1992年10月
	JP/MARC	和 図 書 書 誌	1,123,192	1969年1月～1992年10月
		和 雑 誌 書 誌	82,181	1968年8月～1992年 3月
		和 書 著 者 名 典 拠	273,470	
	UK/MARC	洋 図 書 書 誌	1,275,363	1950年1月～1992年10月
	TRC/MARC	和 図 書 書 誌	293,505	1985年4月～1992年10月
GPO/MARC	洋 図 書 書 誌	309,604	1976年1月～1991年 5月	

(システム業務係)

海外渡航一覧

8.14～ 8.27	計 助手 (中国)	9.17～ 9.28	大西データベース管理係長 (英国)
9. 7～ 9.19	西田副所長 (オランダ, 英国)	10. 1～5.7.31	計 助手 (米国)
〃	根岸教授 (オランダ, 英国)	10.13～10.16	根岸教授 (韓国)
〃	大山助教授 (オランダ, 独, 英国)	10.13～10.26	山田研究開発部長 (独国)
9. 7～ 9.17	高須助手 (オランダ, 独, 英国)	10.18～10.22	猪瀬所長 (仏国)
9.12～ 9.23	山田研究開発部長 (米国)	10.28～11. 4	井上研究主幹 (韓国)
9.12～ 9.20	金 助手 (米国)	10.28～11. 8	金 助手 (韓国)
9.17～ 9.28	雨森事業部長, 新屋庶務係長 (英国)	10.31～11.10	浅野教授 (仏国)

平成4年度総合目録データベース実務研修報告

平成4年度総合目録データベース実務研修は、第1回が平成4年9月21日から10月16日まで、第2回が11月16日から12月11日までの各々4週間にわたり学術情報センターにおいて実施されました。



所長を囲む第1回実務研修員(前列右2人目猪瀬所長)



センターを背景に第2回実務研修員(小石川植物園より)

今年度は、32大学45名の応募があり各回16名の合計32大学32名の下記の研修員の方々が実務研修を受け全員修了されました。これにより昭和61年度(昭和60年度東京大学文献情報センター実施分除く)からの修了者数は207名になりました。

この実務研修の目的は、接続図書館における総合目録データベースの構築を推進するための指導的、中核的人材を養成することで、具体的には、当該図書館における目録業務担当者の指導および地域講習会の講師を行うことになっています。

また、実務研修の内容は、センター教官による学術情報システム、総合目録システム、情報検索総論、学術情報ネットワークなどについての講義をはじめ、センター職員による、NACSIS-CATの現状、雑誌目録システム概論、ILLシステム総論、目録所在情報サービスの課題、目録情報の基準Iの入力基準の解説、目録情報の基準IIの入力基準の解説、データ品質管理解説、MARC解説(図書)、MARC解説(雑誌)、講習会講義要領作成などの解説および講義を行いました。

関連施設見学として、国立国会図書館および図書館流通センターの見学を行いました。また東大植物園をはじめ東工大附属図書館、東大総合図書館などの見学を行いました。

この他、レポート作成では、第1回が「重複書誌について」「重複書誌を考えるー重複書誌個別館調整の検討ー」「初心者のための検索上の留意点」「典拠コントロールの必要性について」第2回が「避及ノススメ」「書誌の同定にいたるまで」「境界領域における図書と雑誌の区分について」「書誌データ修正の現状と問題点」と各班テーマを決め日常業務の中ではなかなかじっくりと取り組めない点について検討し、第3週目に発表がありました。また、第4週目には、センター開催の目録システム講習会の講師を実際に担当していただき「緊張の連続だった」「良い経験となった」などの感想をいただきました。

今回の研修員の方の中には、小さなお子さんを残しての研修となった方もいらっしゃいます。公私ともに大変だったことと思います。研修員の皆様ご苦労さまでした。これからも益々のご活躍を期待しております。

第1回実務研修員

氏 名	所 属
山 本 信 一	北海道教育大学
河 野 忠 市	福島大学
高 嶋 秀 介	埼玉大学
高 見 浩 二	電気通信大学
蜂 谷 文 子	東京学芸大学
勝 俣 好 次	横浜国立大学
折 戸 晶 子	明治大学
金 丸 芳 美	山梨医科大学
佐 野 久 子	富山大学
西 山 真 澄	名古屋大学
小 川 晋 平	京都大学
久 國 靖 代	大阪府立大学
北 條 充 敏	香川医科大学
吉 田 敬 治	鳴門教育大学
飯 田 昇 平	大分医科大学
高 原 秀 典	鹿屋体育大学

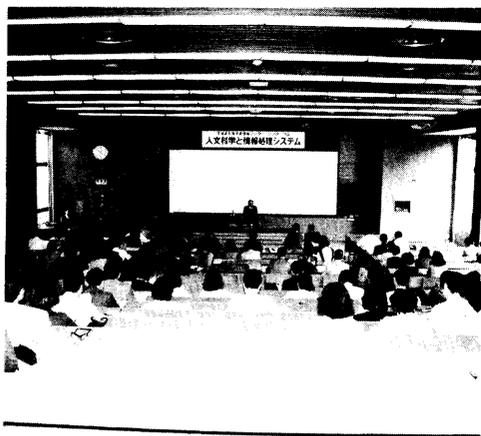
第2回実務研修員

氏 名	所 属
吉 竹 忍	北海道大学
小 野 元 子	東北大学
川 島 一	群馬大学
森 高 佳 子	東京大学
堀 松 恵美子	東京工業大学
村 上 保 彦	一橋大学
城 倉 眞 一	信州大学
橋 美 穂	金沢大学
高 野 成 之	同志社大学
染 野 純 子	大阪市立大学
福 西 まり子	神戸大学
山 根 博	広島大学
柚 友 友 子	徳島大学
松 田 実	愛媛大学
井ノ上 俊 哉	九州大学
瀨 崎 千 雅	熊本大学

(研修係)

平成4年度学術情報センターシンポジウム開催

平成4年度学術情報センターシンポジウムは、去る10月13日(火)「人文科学と情報処理システム」をテーマに、京都大学薬学部記念講堂において開催され、140名の参加がありました。



井上如学術情報センター研究主幹・教授の司会で開会、主催者を代表して西田龍雄学術情報センター副所長の挨拶の後、勝村哲也京都大学人文科学研究所助教授による「漢籍の情報処理における電子漢字の効用」についてOHPを使って講演、石上英一東京大学史料編さん所教授による「日本史研究と歴史情報データベース——古代史料研究の立場から」また、横山伊徳同所助手による「日本史研究と歴史情報データベース——東京大学史料編纂所におけるデータベース構築」をそれぞれ配付資料にもとづいて講演を行いました。

昼食休憩後、樋口忠治九州大学言語文化学部言語科学部門教授による「言語研究とテキスト・データベース」、新井栄蔵国文学研究資料館研究情報部長・教授による「古典研究と情報処理」、西田龍雄学術情報センター副所長による「人文研究と言語研究」をそれぞれレジュメなどにもとづいて講演が行われました。

平成4年度学術情報センターシンポジウム講演要旨は次のとおりです。

(研修係)

漢籍の情報処理に於ける電子漢字の効用

京都大学人文科学研究所助教授

かつ むら てつ や
勝 村 哲 也

京都大学人文科学研究所で、昭和9(1934)年より刊行してきた『東洋学文献類目』(中国研究を主対象とする研究文献目録で、和中文編と欧文編よりなる)をデータベース化し、大型計算機センターより公開し、併せて計算機で作成した版面を平版印刷によって出版するようになって10年になる。採録件数は、156,982件(約150MB)、毎年1万5,6千件づつ増えている。学術情報センターを中心とするネットワークが整備されてきたためもあって、1988年以降は利用者も広く内外に亘るようになり、利用者数は京都大学大型計算機センターで運用しているデータベースの中では常にトップクラスである。

この間私たちは別に、『明代登科録彙編』(科挙の合格者名簿)による明代知識人名録のほか、唐の詩人 李商隱(義山)の『樊南文集』や唐の『藝文類聚』、北宋の『太平御覽』(前者は100巻、後者は1,000巻の大百科事典)の全文データベースを構築(後二者は一部公開)してきた。

上記の諸データベースは、原資料に忠実に従うこと、原綴の文字通りに表示することを原則としているので、当然文字数が多くなる。学術情報センターから提供を受けたALA文字でインド・ヨーロッパ系の文字はほぼ充足でき、ハングルやタイ文字等表音文字も合成作字で用が足りている。問題は漢字である。星野聰教授と共同開発した「康熙字典文字セット」49,188字を基礎にしているが、このセットの文字はイメージ処理で出力せねばならず、ネットワーク利用者にはことに不満の声を聞く。

そこで漢字もハングルやタイ文字の経験に照らして計算機で合成作字することにした。表題にいう電子漢字(電字)である。電字にコードと属性を与え、諸種のコード系(例えばISO10646)とリンクした文字約65,000文字の電字データベースを完成させたいと願っている。その効用は、東洋学ことに中国学・日本学にとっては量り知れない位大きいと、仕事を進めながら実感している。講演では、このことにまつわる若干の事柄について話したが、紙面をかりて申し述べたいのは、電字並びに電字データベース作成にかかる経費が不如意で困っていることである。ご支援をお願いしたい。

日本史研究と歴史情報データベース

1 — 古代史料研究の立場から

東京大学史料編さん所教授

いし がみ えい いち
石 上 英 一

日本史史料データベース（史料情報群）の在り方は、歴史学の基礎分科の史料学の体系のなかで検討されねばならない。歴史的情報過程を端緒段階・媒介段階・終端段階の三過程に区分し、それぞれに対応する資料群・史料群を設定する。

- I 歴史資料が生成される端緒過程 歴史情報生成・保存段階における歴史資料群
- II 歴史資料が伝存される媒介過程 歴史資料伝存・利用段階における史料群
- III 歴史資料が利用者に取得・提供される終端過程 歴史資料調査・研究段階における史料群，歴史資料提供段階における再構成された史料情報群

また，歴史資料群・史料群には次の三形態がある。

- A 歴史情報生成・保存の機構・主体の構造・行動に対応した構成の史料群（機構・主体別情報群，生成保存機構・主体別史料群，伝存利用機構・主体別史料群）
- B 自然的・社会的諸現象あるいは歴史事象に対応した構成の史料群（非機構・主体別情報群，歴史事象別史料群）
- C 歴史資料の形態に対応した構成の史料群（形態別史料群）

歴史研究主体が歴史情報を処理する行為には，歴史資料から史料群を構成する段階と，史料群を素材として公開・提供用の歴史情報（史料情報群と称する）を構成する行為とがある。この一連の歴史情報操作行為が，史料情報作成者が史料情報利用者に情報を提供する際に駆動させる史料情報作成機構の内容である。そして，最後の「史料情報群の生成」行為において電子計算機を使用することが，情報の提供形態（情報の抽出・変換）を規制（可能性の拡大も含む）する。

日本史研究と歴史情報データベース

2 — 東京大学史料編纂所におけるデータベース構築

東京大学史料編さん所助手

よこ やま よし のり
横 山 伊 徳

- (1) 東京大学史料編纂所が，現在のような史料編纂機関として出発するのは，1895年文科大学内への史料編纂掛の設置によってである。史料編纂所は，収集してきた史料に基づく史料集の出版を通じて成果を学界に普及し，学界の発展に貢献し，その発展をフィードバックさせて史料収集を行い，編纂に活かして史料集の質を高めるという，循環構造ができあがった。
- (2) 歴史学のあり方も，ここ30年ほどで急激に変化し，できるだけ原史料に即した立論が求められるようになった。このような状況の変化は，全国の研究者の収集史料利用に対する対応を機関として確立するという社会的要請を強めた。そこで史料編纂所は現在，収集史料を多くの研究者に実質的に公開する文書館・資料館として機能してきている。
- (3) 史料編纂所では電子計算機によって所内の編纂業務の合理化を目指した。84年から電子計算機導入が開始されると，電子メディア特有のコピーや機械印字の容易さ，ネッ

トワーク利用の可能性が理解され、収集史料の効率的な公開の隘路となっていた目録索引類の公開に見通しが出てきた。つまり、従来編纂のために行ってきた目録・索引作成を電子計算機のデータベース上で行えば、編纂業務の合理化と共に公開機能の強化につながる、一石二鳥の効用が期待されるようになったのである。

- (4) SHIPS の一つである『維新史料綱要』データベースは、綱文が全文入力されており、必要なキーワードから綱文を検索しあわせて該当する『大日本維新史料稿本』の架番号を表示する。現在この『稿本』の16ミリマイクロ出版が準備され、『維新史料綱要』データベースに、このマイクロフィルムのリール・コマ番号が入力される予定である。このマイクロフィルムが普及すれば、研究者はわざわざ東京に出向くことなく、研究室でNACSIS-IRを通じてISHINを検索し、手近の『稿本』マイクロフィルム所蔵機関で必要な史料のコピーを入手できるのである。

言語研究とテキスト・データベース

九州大学言語文化部教授

ひ ぐち ただ はる
樋 口 忠 治

ドイツのノーベル賞作家トーマス・マンの全集(全13巻、約12,000ページ)をデータベース化し、九州大学大型計算機センターを通じて公開・提供を開始して来年で10周年を迎える。その後ハンプルク版ゲーテ全集(全14巻、約6,800ページ)も提供されている。

作家の全集がオンラインで瞬時に検索できる環境は言語や文学の研究史上では初めてのことである。こうした研究環境は西欧各国も未だ実現していないから、わが国が協力していけば、必らずや大きな評価を得られるであろう。

これまでの実験的な利用例からして、テキスト・データベースによる計量的な研究が従来の研究成果をくつがえしたり、まったく新しい研究方法を生み出したりすることが明らかになってきている。こうした用例の検索や分析が日常的に行われるようになれば、曖昧な推測に基づく研究が少なくなり、客観的な科学としての性格が増大するであろう。

古典研究と情報処理

国文学研究資料館研究情報部長・教授

あら い えい ぞう
新 井 栄 蔵

国文学研究資料館では、現在、マイクロ目録データベース(昭和62年度サービス開始、累積120,000件)、和古書目録データベース(昭和62年度サービス開始、7,000件)、国文学論文目録データベース(平成4年度サービス開始、累積70,000件)の3系統のデータベースをオンラインサービスしている。

3系統ともに目録形式データベースで、検索方式は、マイクロ目録データベース、和古書目録データベースが基本検索(統一漢字列=カナ列による検索)で、国文学論文目録データベースが基本検索・付加検索キーによる検索(標題に適用)・任意カナ列による検索(執筆者に適用)の3方式併用である。

データベースの構築にあたっては、従来、先覚者として苦勞していただいた研究者・事

務官方の御協力で、機器（ハード）についてはかなり一般的な理解が得られて来ており、又、近年では、その機器を運用するプログラム（ソフト）についても相当に一般的な理解が得られて来ており、該当する機器（ハード）・プログラム（ソフト）の導入が比較的無理なく実施できるようになっている。

しかし、検索対象となる文字情報データ、及び、検索を実効あるものとするためのシステムデータの作成、並びに、運用プログラム検索方式・文字情報データ・システムデータを含む各データベースの初期構築後の逐年メンテナンスについては、データベース構築担当研究者のレベルでも作業工程そのものが確立されておらず、研究開発の実績が少いことも加って、データベース関係者の間でも、必ずしも、一般的な理解が得られておらず、この点に大きな課題が残っている。

今後のデータベース構築の構想にあたっては、そのデータベースを誰がどう使うのか、どの程度のデータベースの質を期待するのか、構築及び追加等のメンテナンスをどうするのか、などを、該当分野の専門研究者を中心に十分に検討した上で、データベース構築・メンテナンスの作業工程を確立しつつ実施すべきであろうと切実に感じている。

大量の情報データ・システムデータによって成立している国文学論文目録データベースの構築作業・メンテナンス作業及びその作業工程の策定に、甚しく且つは楽しく苦勞した古典国文学研究者の一人として申し上げて置きたい。

人文科学と言語研究

学術情報センター副所長

にしだ たつ お
西 田 龍 雄

1. 「言葉の研究」は従来から広い領域をもったが、近年とくに先端的な学問分野と関連して、コンピュータ言語学はじめ、神経言語学、生理言語学、宇宙言語学、文化言語学等々といった領域が提唱されている。宇宙言語学（Cosmic Linguistics）は、将来宇宙人が出現した折、交信するために設計された人造言語（宇宙語 Lincos）の試案の提示に始まる。文化言語学は最近中国で提唱されている分野で、構造言語学、生成文法と発展した20世紀小言語学に取って替わる21世紀言語学の基幹をなす大言語学であると言う。言語と社会の共変、言語と文化の共存などを解釈できる人文的要因を重視し、動的な立場から、言葉という構築物とそれを取りまく環境の研究を強調する。

2. 言語学の究極の課題は、人間の言語行動のメカニズム自体の解明にあるが、理論的な基礎づけとその行動の媒介となる個々の具体的なコードの構造の解明が研究対象になる。近年、普遍論と類型論が進展して、個別言語の研究が盛んになるにもなって、Minorな言語への関心が高まって来た。類型論は、人間の言葉としてあり得る性格の中に、各言語の構造を位置づけ、構造内の部分的特徴の依存関係を重視する領域で、一つの言語内にある共性と個性がそこで見極められていく。Minorな言語の中にある独特な個性が、近年多く判明している。たとえば比較句に、優勢比較と劣勢比較を弁別する言語など興味深い現象が多い。

3. Minorな言語への関心は、滅び行く言葉へ注目を集めると共に、発見された諸言語を大いに歓迎する。最近、東アジアの各地で新しい言語が次々と認定され、各言語は種々の面で言葉の研究に寄与している。たとえば、混合言語である五屯語（青海省）と五色語（広西）の出現は、それぞれ言語の形成と祖形の設定に対して寄与し、また海南島の回族が話す回輝語はインドネシア語系の複音節無声調言語から単音節有声調言語に変化した言語でその存在の発見は、言葉の起り得る構造変移の研究に大きく貢献した。

人事異動

発令年月日 (採用) (転入)	氏名	異動内容	旧官職名
4.10.16 (転入)	川原井 淳	事業部システム管理課	
4.10.1	西山 義昭	管理部総務課長	東京医科歯科大学庶務部人事課長
4.11.1	早野 裕士	事業部システム管理課 国際事業係長	東京工業大学総合情報センター システム管理課システム管理主任
(所内異動)			
4.10.1	清水あゆ美	文部事務官 管理部総務課	事務補佐員 管理部総務課
4.10.1 (転出)	織田 康信	管理部総務課	事業部システム管理課
4.10.1	橘 仁至	文部省大臣官房調査統計 企画課課長補佐	管理部総務課長
4.11.16 (併任解除)	林 修一	東京大学庶務部入試課	管理部総務課
4.11.1	渡辺 博		事業部システム管理課システム管理係長
4.11.1	貝田 辰雄		事業部システム管理課国際事業係長

学術情報センター日誌

[平成4年9月1日～平成4年11月12日]

- | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9.1 国際協力事業団沖繩国際センター山田
義也氏他15名来訪 | 1名来訪 |
| 9.3 Korea Research Foundation,
Chung Yun Choon 理事長他2名来訪 | 10.16 台湾 National Science Council,
Science & Technology Center, Kuo
Hsueh-Wu センター長他1名来訪 |
| 9.4 NACSIS-IR 講習基礎コースI (第3回) | 10.19 Korea Institute of Science & Tech-
nology, Lee Kyung Sang氏他1名来訪 |
| 9.8 Korea Institute of Science & Tech-
nology, Systems Engineering Research
Institute, Cho Young-hwa課長他1名
来訪 | 10.20 韓国機械研究院季一斉氏他1名来訪 |
| 9.18 The Library of American Graduate
School of International Management,
Kris Swank氏他1名来訪 | 10.21 英国 BL Document Supply Centre
S. Vickers 氏他1名来訪 |
| 9.21 総合目録データベース実務研修 (第
1回)～10月16日 | 〃 NACSIS-IR講習基礎コースII(第2回)
～22日 |
| 10.9 米国 Research Library Group,
Karen Smith Yoshimura 氏来訪 | 10.23 Korea Atomic Energy Research Insti-
tute, Kim Chong Hwae氏来訪 |
| 10.13 学術情報センターシンポジウム (京
都大学薬学部記念講堂) | 11.5 Korea Institute of Science & Tech-
nology, Systems Engineering Research
Institute, Byeon Ok-Hwan 氏来訪 |
| 10.14 タイ国 Sukhothai Thammathirat Open
University, Sompit Cusripituck 氏他 | 11.12 英国 Petroleum Science & Technolo-
gy Institute, Stewart Brown 氏他1
名来訪 |

学術情報センターニュース (第22号)

1992年12月28日発行

発行人 猪瀬 博

発行 学術情報センター 東京都文京区大塚3丁目29番地1号 (〒112)

電話 (03) 3942-6937 (直通) 情報・資料係